

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	有限会社 ポプラ グループホーム あじさい 2階	評価実施年月日	平成21年11月~12月末
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>「人間への深い愛と理解」「社会の福祉に対する奉仕」の二大理念を掲げ、より深い理念の理解と遂行を心かけている。</p>	○	<p>愛の減少感におち入らないよう個々を尊重し、尊厳をもってこれからも取り組んでいく。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>入居者様への対応の中にも理念が浸透されるよう、ホーム内での研究を行っている。</p>	○	<p>職員と共に理念を共有し、実践に向けて日々努力している。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>ユニットの入り口に額に入れて掲げてあり、誰でも目につくようにしている。 また、ホームでの行事ごとホーム便りを作成し、理念に基づいた活動をしている様子をお知らせしている。</p>		<p>玄関の見やすい所に掲示し、家族・来客・地域の方達が来訪の際、理解していただけるようにしている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>あいさつなどを通して自然な形で、地域の人達と顔なじみ関係作りをしている。</p>		<p>町内の方達とも、お会いすれば声かけしたり、挨拶をかわしたりし、気軽に立ち寄れるホーム作りに努力している。 よく散歩するホーム回りで休んでいる</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>ホームのお祭りや行事等に地域の方達を招待し、交流を深めている。</p>		<p>夏のあじさい祭りには、近所の方にも声かけして参加していただいたり、地域のイベント(自衛隊航空隊、生協祭り、盆踊りなど)へ参加し、地元の人々と交流をもっている。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>入居者に配慮しながら、近隣の方からの相談にも対応できるように積極的にホームを開放している。 町内会での会話、地域の高齢者の見学、古新聞回収、会館の掃除、町内子供達との交流をしている。</p>		<p>地域の方達にホームを開放し、気軽に高齢者の方が立ち寄れるよう取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価表は職員がいつでも閲覧できる場所にあり、常に改善すべき点がないか話し合い、よりよいサービスが提供できるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も、外部評価を実施し、注意を受けたことは、改善に向けて努力し、良いサービスの提供が出来るよう、取り組んでいく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議では、地域の皆様と共に、利用者一人一人にどのようなサービス提供をすべきか意見交換をし、常にサービス向上に心がけていきたいと考えている。</p>	○	<p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしていくことに取り組んでいます。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村担当者と機会あるごとに話し合いをもつようにしており、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。また相談にものってもらっている。</p>		<p>常に市の担当者に相談し、サービスの質の向上に努めている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修会などで地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な人には、それらの活用ができるよう支援している。</p>	○	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度の研修がある時は出席し学び、必要な人には活用できるよう支援していく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>常に機会をみつければ高齢者虐待防止関連法について学び、虐待はもとより、個人の誇りやプライバシーを損ねるような対応がないよう努めている。</p>		<p>職員間でお互いに注意し、虐待がないか、特に言葉による虐待には気をつけるよう取り組んでいる。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく記載し、かつ利用者及び家族に説明し、理解納得していただき同意を得ている。</p>	○	<p>契約、解約をする際は、利用者や家族と充分に話しあい、契約書の説明、重要事項の説明をし、理解・納得して頂くよう取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の声につねに耳を傾け、意見・不満・苦情には速やかに適切な対応ができるよう取り組んでいる。	○	利用者の意見・不満・苦情に耳を傾け速やかに適切な対応ができるようにし利用者の意見を反映させ、良いホーム作りに心がけている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ホーム内でのできごとは定期的に文章にて報告し、ご家族の訪問時には、健康状態や日々の暮らしぶりなど、報告させていただいている。		ホーム内でのできごと、行事、健康状態などに関しては、その都度、家族の来訪の時や又は電話等で報告している。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族等からの意見、不満、苦情は常時受け付け、管理者を筆頭に職員一同、それについて検討し、運営に反映させている。	○	家族等からの意見、不満、苦情は常時受け付け、管理者を筆頭に職員一同、それについて検討し、運営に反映させている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝の申し送り、月1回のミーティングなどで職員が意見を言い、提案できる機会がある。そこで話し合った事の内容にもとずき、日々介護に反映させている。		毎朝の申し送り、月1回のミーティングなどで職員が意見を言い、提案できる機会がある。そこで話し合った事の内容にもとずき、日々介護に反映させている。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	職員に対し、休み希望を聞き、行事、イベント時の勤務調整などを行っている。		職員に対し、休み希望を聞き、行事、イベント時の勤務調整などを行っている。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者が安心して支援をうけられるよう、できる限り人事異動はしないよう配慮をしている。		利用者が安心して支援をうけられるよう、できる限り人事異動はしないよう配慮をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>研修会や学習の場があれば積極的に職員を参加させている。</p>		<p>研修・勉強会などある時は、多くの職員が参加できるよう体制づくりなども考えている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>研修会などで、地域の同業者との交流をはかりネットワーク作りに取り組んでいる。</p>		<p>サービスの質の向上を目指し、ネットワークを利用し、地域の同業者同士の相互訪問や定期的な勉強会を行っている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>運営者は悩みなどを相談できる機会を作って、ストレス解消の方法や環境づくりを考えている。</p>		<p>運営者は、職員の悩み、ストレスがたまらないよう気をつけ、楽しく、安心して働ける職場づくりに取り組んでいる。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>各職員それぞれの知識や経験を考慮し、利用者への対応、介護技術の向上を目指し、その場に応じて、個々または、全体に働きやすい職場にするため努力している。</p>		<p>向上心をもって働けるよう、運営者は職員に対して、研修など勉強する機会を与えている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>初期の信頼関係の確立には努力を惜しまず本人の話を聴く機会を多くもち、不安や訴えを快よく受け止め、最善の対応ができるよう努力している。</p>		<p>よく耳を傾けて話を聴き、全てを受容できる信頼関係をつくれるよう努力している。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>よりよい信頼関係を築くために家族等が訪問された際には必ず話しをする時間を作り、ホームでの様子を話しながら既往症、生活歴を聞くのと同時に、そこから不安な事、困っている事など話しやすい環境作りを行っている。</p>		<p>相談を受けて利用するまでの間は、本人はもとより家族の不安、要望などよく聴き、今後について話しあい、家族との信頼関係をつくっている。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談者にとってその時どんな支援が必要あるかを見極め、他のサービス等を含め対応する様、努めている。		相談者にとってその時どんな支援が必要あるかを見極め、他のサービス等を含め対応する様、努めている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居者の方に合ったサービスを提供できる様、職員は家族と相談して工夫している。また、他の利用者や雰囲気馴染める様、声かけなどを心がけている。		本人が安心した生活をしていただくために今後も家族と話あいながら、より家庭的で気づかいのしないホームであるよう、サービスを提供していきたいと思っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に過ごす時間をなるべく多く作り、各々の得意な分野について話を聞いたり、教えてもらったりしている。		人生の先輩から教えられること多々あり、家族的な中に日々の喜怒哀楽を感じている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた時や、行事に参加された時など、入居者の体調や日常生活を逐一報告し、より良い介護ができる様、努めている。		本人の日頃の行動、体調に変化ある時は、直ぐに家族に連絡し、信頼関係をもってよりよい介護ができるよう努力している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員は利用者の家族構成、現在の家族関係を考慮し本人と家族との意志の疎通がスムーズに行く様、努めている。	○	ホーム主催の行事などによる、家族と本人の交流の場を増やし、よりよい関係が築けるよう支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所前から通っていた理美容店に行くなど、馴染みの店に行けるよう支援している。		年齢が増すごとに馴染みの人や場所も少なくなってくるが、出来るだけ通い入れた理美容室、病院などへ行けるよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士がうまく関わり合いをもてるようにヘルパーと一緒に会話をしたり、行動を共にし、特定の利用者が孤立したり、されたりしないよう配慮している。		利用者同士がうまく関わり合いをもてるようにヘルパーと一緒に会話をしたり、行動を共にし、特定の利用者が孤立したり、されたりしないよう配慮している。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去時、退去後も本人にとってよりよい結果が得られるよう支援することに努めている。	○	サービス利用終了後も、家族、利用者と関わりを持ち、再度の利用とサービスにつなげていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの話をよく聞き思いや暮らし方の希望・意向を把握し、本人がよりよい生活が出来るよう支援している。		一人ひとりの話をよく聞き思いや暮らし方の希望・意向を把握し、本人がよりよい生活が出来るよう支援している。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりとのコミュニケーションを大事にし、日々の会話の中から生活歴等を把握し、馴染みの暮らし方などを把握しホームでの対応に役立っている。		一人ひとりとのコミュニケーションを大事にし、日々の会話の中から生活歴等を把握し、馴染みの暮らし方などを把握しホームでの対応に役立っている。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	常に利用者の言動、行動を見守り、特変があれば必ずケース記録に残すと共に職員間でもサービスの提供方法を検討するよう努めている。		常に利用者の言動、行動を見守り、特変があれば必ずケース記録に残すと共に職員間でもサービスの提供方法を検討するよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人が元気で快適に暮らせる様に職員間で、日々意見交換しつつ、必要に応じて適切な関係者と話し合い介護計画を作成している。		本人が元気で快適に暮らせる様に職員間で、日々意見交換しつつ、必要に応じて適切な関係者と話し合い介護計画を作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		<p>通常3ヶ月毎に介護計画の見直しをし、急変のある場合においては、必要な関係者等と話し合い、随時見直しをしている。</p>
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		<p>職員は一人一人のケース記録に、日々の細かな様子等を記載し、情報を共有しながら、より良い介護を目指し、介護計画の見直しに活かしている。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		<p>本人や家族の状況や要望に応じ、最適なサービスを提供している。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○ 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		<p>本人にとって快適かつ楽しんで頂ける様、各機関と協力しながら支援している。 機会があれば、ボランティアの方に来て頂いたり、万がいちの場合のことも考えて、警察・消防などにも協力体制をお願いしている。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		<p>本人や家族の意向をよく聞き、ニーズにあった事業者の紹介やサービスの提供を心がけている。</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	<p>本人の意向や必要性に応じて、地域包括支援センターと情報交換等の連携を図るよう心がけている。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>		<p>本人を良く知る医療機関(かかりつけ医)に受診し、相談をしながら、支援している。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		<p>指定の担当医より診断・治療を受けている。 何か体調に変化ある時は、すぐにかかりつけ医に相談し指示を頂いている。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		<p>医療提携している病院の看護師と連携を取り、健康管理に努めている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		<p>医療機関との連携をとり、入院した場合にも早期退院できる様、努めている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		<p>本人・家族・かかりつけ医等と話し合い、ミーティングを通じ、職員全員で方針を共有している。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	<p>今後の変化に備えて、更にチームとして検討し、準備を行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人の「移り住むことのイメージ」を最小限におさえられるよう、家族等とはもちろん、本人に係る保健、医療、福祉の関係者と十分な話し合いの機会をもち、情報交換に努めている。		家族・本人と良く話しあい、本人にとって一番良い方向へ向かうよう、関係者と協議し、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりの生活歴・生活・思いを十分把握し、よく話を聞いて、決して否定することなく、その人をまるごと受け止め、人格を尊重しその人に合わせた声かけや対応をしている。		一人ひとりの生活歴・生活・思いを十分把握し、よく話を聞いて、決して否定することなく、その人をまるごと受け止め、人格を尊重しその人に合わせた声かけや対応をしている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	その人に合わせた説明を行ない、本人の意志を大切にし、納得のいく日常を過ごして頂ける様、支援している。	○	その人に合わせた説明を行ない、本人の意志を大切にし、納得のいく日常を過ごして頂ける様、支援している。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床や就寝時間はその人ペースで着替えや食事等も時間がかかっても、その人の時間に合わせている。 入居者中心の生活が展開されている。		起床や就寝時間はその人ペースで着替えや食事等も時間がかかっても、その人の時間に合わせている。 入居者中心の生活が展開されている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	歩いていける時期には近く的美容室に行っているが冬の期間は訪問の美容院を利用している。 時には、つめにマニキュアをつけたり、口紅をつけたりして気分転換を計っている。		歩いていける時期には近く的美容室に行っているが冬の期間は訪問の美容院を利用している。 時には、つめにマニキュアをつけたり、口紅をつけたりして気分転換を計っている。
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理の下準備など、出来る範囲でそれぞれのペースで行っている。 誕生日の時は、本人が食べたいメニューなど取り入れている。		調理の下準備など、出来る範囲でそれぞれのペースで行っている。 誕生日の時は、本人が食べたいメニューなど取り入れている。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みの物を状況に合わせて楽しんで頂いている。 過剰摂取・誤飲の危険のある場合にはある程度管理している。		好みの物を状況に合わせて楽しんで頂いている。 過剰摂取・誤飲の危険のある場合にはある程度管理している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	定期的なトイレ誘導、夜間中のポータブルトイレ設置などを行ない、支援している。		定時巡回はもとより、その人にあったポータブル使用の方にも排泄パターンに合わせ、時間をみながら誘導している。 安心して気持ちよく排泄できるよう支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の安全と職員配置により、午前・午後、週2回の入浴となっている。 入浴拒否の入居者がいた場合は本人の希望があった際、状況を見ながら、いつでも入浴できるような対応の工夫をしている。		入居者の安全と職員配置により、午前・午後、週2回の入浴となっている。 入浴拒否の入居者がいた場合は本人の希望があった際、状況を見ながら、いつでも入浴できるような対応の工夫をしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣に応じて、昼間にゲーム・歌・散歩など、適度な運動や精神の安定をはかり気持ちよく休息できるよう支援している。		一人ひとりの生活習慣に応じて、昼間にゲーム・歌・散歩など、適度な運動や精神の安定をはかり気持ちよく休息できるよう支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や現在の身体能力に応じて、掃除や料理の下ごしらえ、片付け物などをしていただき、社会の一員としての生きがいをもっていただいている。		今後も一人一人の個性を大切に役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族との話し合いの中で了解を得た小額なお金を財布に入れている。 財布を持ってもらうことで、入居者自身で買いたい物を選び支払うなど安心と自信につなげている。 ほとんどの入居者様は認知症により金銭の管理は出来ないのですが……。	○	社会性維持のためにもショッピングなどに出掛ける機会をもっとつくり支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望にそって、外気浴、散歩等、気候・体調を考慮しつつ、職員付き添いで行っている。		本人の希望にそって、外気浴、散歩等、気候・体調を考慮しつつ、職員付き添いで行っている。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お花見・遠足・地域のお祭り・大型スーパーへの買物飲食店等、他の利用者・家族と共に外出する機会を作っている。		お花見・遠足・地域のお祭り・大型スーパーへの買物飲食店等、他の利用者・家族と共に外出する機会を作っている。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙を日常的に使える様支援している。 電話は此方でかけてあげ、手紙は代筆したり(書けなくなっている)し家族との交流に努めている。		電話や手紙を日常的に使える様支援している。 電話は此方でかけてあげ、手紙は代筆したり(書けなくなっている)し家族との交流に努めている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問でき、居心地良く過ごす事ができる様、工夫している。		いつでも気軽に訪問でき、居心地良く過ごす事ができる様、工夫している。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関して職員全員が理解している。 やむを得ない場合には、利用者および家族と十分話し合いを行っている。		身体拘束に関して職員全員が理解している。 やむを得ない場合には、利用者および家族と十分話し合いを行っている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけなくても常に目配り・気配りをする様心がけ、利用者及び家族に自由に快適な生活を送って頂ける様、取り組んでいる。		鍵をかけなくても常に目配り・気配りをする様心がけ、利用者及び家族に自由に快適な生活を送って頂ける様、取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日常において、プライバシーの侵害にならぬよう配慮しつつ、安全確保に努めている。		日常において、プライバシーの侵害にならぬよう配慮しつつ、安全確保に努めている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人一人の状態に応じて、職員で相談しつつ、より安全な方法を考え、迅速に対応している。		一人一人の状態に応じて、職員で相談しつつ、より安全な方法を考え、迅速に対応している。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、対応できるようにしている。 研修や勉強会などある時は参加し、事故を防ぐよう知識を高め、事故防止に努めている。		マニュアルを作成し、対応できるようにしている。 研修や勉強会などある時は参加し、事故を防ぐよう知識を高め、事故防止に努めている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生時のマニュアルを定期的に全職員で検討・確認し、初期対応の訓練をしている。		急変や事故発生時のマニュアルを定期的に全職員で検討・確認し、初期対応の訓練をしている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難経路、消化器の位置など常に検討、確認している。	○	避難経路、消化器の位置などは、防火管理者から説明を受け、確認している。 地域の人々に協力を得られるよう働きかけている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	一人ひとりに起こり得るリスクについて、家族には充分説明し、理解を得ている。 そして、そのことについての対応策について話し合う機会も持つよう努めている。		一人ひとりに起こり得るリスクについて、家族には充分説明し、理解を得ている。 そして、そのことについての対応策について話し合う機会も持つよう努めている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	交代時に職員同士で申し送りを必ず行ない、対応している。 入居者一人一人の体調には常に気をつけ、変化ある時は主治医に連絡し、早期発見に努めている。		交代時に職員同士で申し送りを必ず行ない、対応している。 入居者一人一人の体調には常に気をつけ、変化ある時は主治医に連絡し、早期発見に努めている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりのケース記録に常に新しい処方箋がつけられ、薬の変更があった場合は必ず申し送りや用法の確認を行ない、副作用の症状の見落としなどない様、努めている。		一人ひとりのケース記録に常に新しい処方箋がつけられ、薬の変更があった場合は必ず申し送りや用法の確認を行ない、副作用の症状の見落としなどない様、努めている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日の排泄をチェックし、状況を見て便秘薬等を使用している。 又、水分摂取のチェック、繊維質を多く取る工夫などもし、又、体を動かすよう、おやつの前、簡単な運動も続けている。		毎日の排泄をチェックし、状況を見て便秘薬等を使用している。 又、水分摂取のチェック、繊維質を多く取る工夫などもし、又、体を動かすよう、おやつの前、簡単な運動も続けている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアをし、入れ歯洗浄剤などで、汚れと臭いが生じないようにしている。		毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアをし、入れ歯洗浄剤などで、汚れと臭いが生じないようにしている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取量を記入している。 その時々で体調や状態に応じ支援している。		食事・水分の摂取量を記入している。 その時々で体調や状態に応じ支援している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	時節や流行の恐れのある感染原に応じて、塩素系漂白剤・アルコール消毒薬・熱湯殺菌など毎日、欠かさずおこなっている。(特にトイレや手すりなど共用部分は1日に数度消毒している)		時節や流行の恐れのある感染原に応じて、塩素系漂白剤・アルコール消毒薬・熱湯殺菌など毎日、欠かさずおこなっている。(特にトイレや手すりなど共用部分は1日に数度消毒している)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な物を調理し、加熱・冷蔵・調理用具の消毒・職員の手洗いなど、常に安全を心がけている。		新鮮な物を調理し、加熱・冷蔵・調理用具の消毒・職員の手洗いなど、常に安全を心がけている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりに色とりどりの草花を植え、温かな雰囲気を作り、利用者や家族が入りやすく近隣の人も訪ねやすいようにしている。	○	花壇の花を見ながら近くの人、通りがかりの人達と会話をしている。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間には利用者の作品を展示したり、季節に合った草花をかざるなど安心感のある雰囲気作りをしている。		共用の空間には利用者の作品を展示したり、季節に合った草花をかざるなど安心感のある雰囲気作りをしている。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールのソファ・テーブル・イスの配置のしかたを工夫し、利用者が落ち着いて過ごせるようにしている。		ホールのソファ・テーブル・イスの配置のしかたを工夫し、利用者が落ち着いて過ごせるようにしている。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が過ごしやすく、動きやすくするため、家族と話し合っている。本人の愛着のある物や、使い慣れた物や好みの物を活かせる様、よく話しを聞き、居心地のよい部屋作りに努めている。		本人が過ごしやすく、動きやすくするため、家族と話し合っている。本人の愛着のある物や、使い慣れた物や好みの物を活かせる様、よく話しを聞き、居心地のよい部屋作りに努めている。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入れかえや、換気に気を付け、冷暖房の調節は利用者の状況に合わせてこまめに行っている。		空気の入れかえや、換気に気を付け、冷暖房の調節は利用者の状況に合わせてこまめに行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	建物はバリアフリーであり、手すりが廊下・トイレへ設置され、危険な障害物を置かないよう工夫している。		建物はバリアフリーであり、手すりが廊下・トイレへ設置され、危険な障害物を置かないよう工夫している。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口や、食卓での座る位置に名前を書いたりして、混乱・失敗がなく安心して暮らせるように工夫している。		今後も、居室の入り口、食事の時に座るテーブルに名前をつけたり、混乱や失敗がないよう気をつけ、安心して生活出来るよう工夫している。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホームの外まわりに家庭菜園や鉢植え、プランターなどに色とりどりの花を植え、水まき、草とりなどを楽しんでいる。 また、ベンチを置き、日光浴をしながら利用者同士、会話ができるようにしている。		トウキビ・豆・トマト等、土おこしから収穫まで、出来る人は共にしている。



	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	レ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない  何かを訴えて来た時、又、その日の状態を見て、不安や困ったこと、又、欲求や願いなども聞き入れ、その利用者がより良い暮らしが出来るよう支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	レ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない  毎日、お茶の時間、午前、午後、スタッフといっしょにお話ししたり、くつろいだ時間をつくっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	レ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない  一人ひとりの個性を大事にし、その人に合ったペースで生活出来るよう支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	レ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない  利用者が出来ない部分は援助し、出来ることに対しては、していただき、日常生活にはりを持たせ、一日一日楽しく過ごせるよう支援している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 レ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない  利用者が買い物、散歩などに行きたい時は、スタッフが付き添いで出かけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	レ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない  利用者が体調の悪い時などは、主治医に相談し、指示をいただいたり、又、受診し健康管理にに努めている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	レ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない  利用者の要望に対しては、出来る限り聞き入れ、ホームで安心して暮らせるよう支援している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	レ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない  家族が来訪した時は、利用者の最近の状態を話したり、必要なものがあればお願いしたり、話す機会をおおく出来るよう工夫している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 レ③たまに ④ほとんどない  利用者が年々、高齢になっていき、馴染みの方が来ていた利用者も、来なくなったりしている。地域の方も、イベントのある時など来てくださったり、又、町内会長をはじめ、時々訪ねて来ている。

項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている レ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	運営推進会議の役員を地域の方をお願いに訪問したり、グループホームの説明などもしたことで地域の方も理解してくださり、つながりも深まりつつある。
98	職員は、生き生きと働けている	レ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	その日のストレスはその日のうちに解消し、明日に向けて生き生き働けるよう努力している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	レ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	ほぼ満足している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	レ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	おおむね満足している。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

職員は入居者個々の思いをよく理解し日々のケアに生かせるようあたたかく、受容的な姿勢で接している。  
 食事については、業者にまかせるのではなく、利用者の嗜好や日々変化する気候などにあわせて柔軟に献立を組み変えるなどして、手作りで、あたたかみのあるものを常に提供している。